

# こだいら NPO ボランティアセミナー



## はじめに

地域に役立つ人材の養成を担う大学にとって地域との連携は近年ますますその重要性が高まっています。学生にとって、行政だけでなく地域で抱えるさまざまな課題に取り組む市民活動を知ることは、地域の課題を理解し、そのための解決策を考える上でも有益です。

2005年に白梅から発信して「NPOと大学生との出会いの場」を武蔵野美術大学、嘉悦大学にも呼びかけて、学生たちと小平市内の市民活動団体との出会いの場づくりを始めたのはそんな思いからでした。幸い人口18万人という小平市に大学は7つもあり、NPOなどの市民活動団体も50を超え、活動は活発です。「NPO法人小平市民活動ネットワーク」と「小平市社会福祉協議会ボランティアセンター」も共催として加わって頂いたおかげで、この取り組みは毎年開催することで定着、後に文化学園大学も加わり、大学生と市民活動との輪がこの10年で一層広がってきました。大学生たちが、大学での学びと若さゆえの力を発揮することで、市民活動にも役立てると同時に学生たちにとっても生きた地域の課題を学ぶことが出来る。その成果を身に付けた学生たちも、今、地域でさまざまな仕事、活動に取り組んでいます。少子高齢社会が加速し、難しい地域の課題も増えています。他の地域にはなかなか見られない、この小平市での市民活動と大学生との協働の輪をさらに広げていくことで、地域の課題解決の一助にもしていきたいと願っています。

(白梅学園大学教授 山路 憲夫)



## インターンシップ型導入の経緯と成果、そして課題

NPOとはどのようなものか。一言で表現するとしたら、「人を、社会を、自然を、大切にするための、人々の現場をもつての模索」とでありたいと思います。

本セミナーにおいて、インターンシップ型の実習を導入する必要性を感じたのは、そうした模索を理解するには、スタッフの立場に立ってせめて2週間、そのNPOの仕事ぶりを体験する必要があるのではということでした。本学の学生のインターンシップ体験の事例が示すのは、NPOの模索ぶりを感触としてつかんできたとはいえると思います。しかし、そのことの言語化の面では不十分な面がまだまだあり、実習学生の体験の積み上げとその言語化のプロセスに教員が、もうすこし随伴し、NPOのスタッフともやりとりを増やす必要があります。

年を経るごとに、受け入れ学生の特性の理解を深めてくださったスタッフに感謝しつつ、そう感じています。

(嘉悦大学教授 内田 和夫)



## インターンシップを導入した際の経緯や大学としての成果

文化学園大学ではインターンシップ型プログラムへの参加を、企業へのインターンシップと同列に位置づけています。学生に幅広いインターンシップ先を提示することで、より具体的に今後の糧となる就業経験を積ませることが可能になりました。インターンシップ型プログラムでは深く長期に渡りNPOと関わるため、ボランティア型での参加よりもNPOの活動について多角的に知ることができます。

(文化学園大学助教 松原 詩緒)



## こだいら NPO ボランティアセミナーのこれから

セミナーを12年間継続開催することで、それぞれの大学の個性に応じた地域連携・社会連携・大学間連携・インターンシッププログラムの推進などの可能性が広がった。学生自身にとっては、社会の課題を発見しそれに向き合う機会がつくられた。これからは、学生を受け入れるNPO側の具体的な成果に期待したい。それには事業課題の解決を目的のひとつとして取り組むことも必要だ。大学や中間支援機関がそのためのプログラムづくりにも関われる真のパートナーとしての実力をつけていくことが望まれる。社会の変化に対応する新しいNPOの参加も広げたい。コミュニティにとってよい刺激になるに違いない。

(武蔵野美術大学教授 武蔵野美術大学  
こだいら NPO セミナー推進委員会実行委員長  
齋藤 啓子)



6月「大学生と市民活動の出会いの場」  
受入れ団体からのプレゼンテーション  
の後、学生が各団体ブースを訪問



6月「NPOと大学生の出会いの場」  
夏の活動先が決まり、改めて受入れ団体と  
学生達の紹介+抱負を一言



9月「成果発表」  
夏の活動の報告、成果をシェアして発表  
受入れ団体と教授からもコメント

**このセミナーが生まれたのは**、社会福祉協議会(社協)が設置した「(仮称)こだいらボランティア・市民活動センター設立準備委員会」の中で、「将来、小平版学生ボランティアセンターができれば面白いよね」「多様な年齢層の参加の機会があるといいな」「学生と市民活動の出会いには面白いのでは?」などの熱い想いが礎となった。海のものとも山のものとも言えないような状態であったが、多様な立場の委員の力が集められ、一つの事業として身を結び、形となった。「これまでにない企画がやりたかった」「いろいろな可能性を試してみたかった」など、大事なポイントはあったが、何よりも社協職員が企画を考え実践するという手法ではなく、職員と委員の議論の中で発案され、企画・実施を、3大学、NPO、社協という、これまでにない5者の組み合わせで実践できたことが大きな成果で、現在へと繋がっているのだと感じている。

(こだいらボランティアセンター)

### 第11・12期 学生受け入れ団体

市民活動団体やNPO法人が学生向けの活動プログラムを用意、6月に学生にプレゼンテーション、7~8月には各団体のフィールドで活動、9月にその成果を確認します。

| 団体名<br>★はインターンシッププログラムあり | 参加年度  |       |
|--------------------------|-------|-------|
|                          | 2014年 | 2015年 |
| NPO法人 子育てサポートきらら         | ○     |       |
| NPO法人 こだいら自由遊びの会         | ○     | ○     |
| NPO法人 こだいらソーラー           | ○     | ○     |
| NPO法人 小平ハートピア            | ○     | ○     |
| NPO法人 コミュニティケアリンク東京      | ○     |       |
| NPO法人 サポートクラブあすなる        | ○     | ○     |
| NPO法人 春望リハビリセンター六三四      | ○     | ○     |
| NPO法人 小平・環境の会            | ○     | ○     |
| こだいら国際プロジェクト Seed        | ○     |       |
| コミュニティ・サロン「ほっとスペースさつき」   | ○     | ○     |
| NPO法人 あかね会 ゆうやけ子どもクラブ ★  | ○     | ○     |
| NPO法人 だれもがともに小平ネットワーク ★  | ○     | ○     |
| 社会福祉法人 つむぎ おだまき ★        | ○     | ○     |
| 社会福祉法人 未来 ★              | ○     | ○     |

2004年度、白梅福祉NPOセミナー「**地域を拓くNPO力を考える**」(白梅学園大学単独事業)に始まり、小平市と近隣で課題の発見と解決に取り組む団体と学生時代を過ごす若い人達との出会いの場づくりに参加してきた。「市民活動の活性化及び地域の発展に寄与することを目的とする」と謳う当法人としては、団体が学生を受け入れることでの気づきや他団体と互いを刺激し合う効果を意識しながら、同時に、若い人のここでの経験が数年、数十年先に本人や社会に良い効果をもたらすことも期待している。この12年の社会の変化は大きく、その最先端の一つとも言える事業に変容しつつあることを今自覚している。

(特定非営利活動法人 小平市民活動ネットワーク)

▲事業実施主体▲ こだいら NPO セミナー推進委員会 ▲協働・共催▲ 白梅学園大学、嘉悦大学、文化学園大学、武蔵野美術大学、小平市社会福祉協議会(こだいらボランティアセンター)、NPO法人 小平市民活動ネットワーク  
▲事務局▲小平市社会福祉協議会(こだいらボランティアセンター) 電話:042-346-1424 / FAX:042-341-6220  
E-Mail: v-center@syakaifukushi.kodaira.tokyo.jp ▲発行年月日▲ 2016年3月31日